

手芸や生け花 多彩 田井地区「秋の祭典」



手芸や絵を描いた傘などが並ぶ田井地区の「秋の祭典」

な空間を演出。同協議会文化部理事の納田英子さん(62)は「みんなの頑張りを披露できるように工夫した。パワーアップした電飾に注目してほしい」と話した。

(内田貴大)

田井地区コミュニティ協議会の「秋の祭典」が19日、田井市民センターで開幕した。手芸や生け花といった作品展に加え、夜は屋内外に飾り付けたイルミネーションが点灯し、地域住民らを楽しませている。

新型コロナウイルス禍で作品展は2年ぶり。高生徒が発泡スチローで作った恐竜の骨格模型やオブジェを披

露。駐車場には小児が座生と個人によるバッジや人形といった編み物、風景や花を描いた墨彩画、田井小児童が自由に絵を描いたビニール傘など、約90人の自信作が並ぶ。

1階ロビーでは玉野高生徒が発泡スチローで作った恐竜の骨格模型やオブジェを披

午後5時からは約1万個のLED(発光ダイオード)が点灯し、玄関横にそびえる巨大クリスマスツリーや雪だるまの電飾が幻想的

100円であめを販売する。